

芥川也寸志氏と新交響楽団、“感無量の受賞”
第 8 回鳥井音楽賞贈賞式

第 8 回 (1 9 7 6 年) 鳥井音楽賞は、さる 1 月 2 0 日の審査会で「芥川也寸志氏と新交響楽団」に決定したが、その贈賞式が 3 月 5 日 (土) 東京・丸の内での東京会館で、受賞の芥川氏と新交響楽団のメンバー全員を含む音楽関係者約 3 5 0 人を集めて開かれた。

この日午後 2 時から始まった贈賞式は、まず鳥井音楽財団の佐治敬三理事長が、『第 8 回鳥井音楽賞が贈られる「芥川也寸志氏と新交響楽団」は、昨年、アマチュア団体でありながら、幻の曲とされていた戦前の日本人作曲家の交響曲を発掘、それを 2 夜にわたる演奏会で見事に再現されました。今回の受賞は日本のクラシック界の発展を願って制定された鳥井音楽賞にとっても大変意義深いことです』とあいさつ。

引き続き贈賞に移り、同理事長から、賞状と賞金 1 0 0 万円、副賞として現代の美術家ヴィクトル・ヴァザレリーにより精巧に石版刷りされた世界にも数少ないバツハ自筆の楽譜の複製が芥川氏に、新交響楽団を代表して松木英作理事長に記念品の〈タスト・ヴァン〉がそれぞれ手渡された。この〈タスト・ヴァン〉は、今回の受賞者がオーケストラで団員が多数のため特別に製造された記念品で、フランス・ブルゴーニュ地方でワインの唎酒の道具として使用されるもの。

贈賞のあと、来賓として出席の安嶋彌文化庁長官が「アマチュア団体の新交響楽団が、日本人作曲家の曲を演奏し、受賞されましたことは、文化庁が推奨する“参加する文化活動”として全国のアマチュア音楽家に大きな励みを与えるものです」とお祝いの言葉を述べた。

新交響楽団を設立し、常任指揮者をつとめた芥川氏は、受賞の喜びを「私と新響の結びつきは 2 0 年になりますが、この間苦しいことの連続でした。そんな時、新響は“音楽とは何か”を絶えず問いかけ、私に大きな力を与えてくれました。鳥井音楽賞を受賞し非常に光栄です。今度は本業の作曲で受賞したいと思います」と、時には言葉をつまらせながら、感慨無量に語っていた。

また、新交響楽団の松木英作理事長は「権威ある賞を頂き、うれしさより賞の重さを感じています。これからは、もっと頑張って芥川先生に恩返しのできる演奏をしたい」と喜びの弁を語った。

この後、芥川氏の指揮で新交響楽団が受賞演奏として、芥川氏作曲の「弦楽のための 3 楽章」を披露、力強い見事な演奏で会場を魅了させた。

贈賞式に続いて行なわれた祝賀パーティーでは、新交響楽団の第 1 回演奏会、日頃の練

習風景、またメンバー達がスライドで次々に紹介され、会場はなごやかな雰囲気につつまれた。

最後に、同じアマチュアで、新交響楽団とは、芥川氏の指揮で合同演奏をしたことのある端穂青少年吹奏楽団が、お祝いとして、ゴードン・ジェイコフ作曲の「式典のための音楽」を吹奏、なごやかなパーティーのフィナーレをかざった。

鳥井音楽財団では、1974年からその年の受賞者を中心としたコンサートを定期的に開催しているが、今年も8月に、東京、大阪などで行なう予定。

以 上